

活 用 事 例	札幌市立稲穂小学校	山田秀哉教諭
活用事例タイトル	プロジェクト型アプローチ「未来の自動車づくり」	
対象授業科目/活動	社会科「工業生産を支える人々」	
授業または活動の概要(目的、実施時期、授業の場合教科名や単元名、対象学年、参加人数、ICTの使用局面など)	1. ねらい 工業が自分たちの生活とどのように結びついているのかを自動車工業をモデルとして日本の工業の姿を具体的にとらえさせる。 2. 実施時期：平成 24 年 11 月 3. 対象学年：5 年 2 8 名 4. 活動の概要 児童 4 名を 1 チームとした架空の自動車会社を設立し、2015 年に発売する「世の中の役に立つ自動車」を「人」「安全」「環境」「ICT」の 4 つの視点から構想し、リーフレットやプレゼンテーションで発表させた。 ①自分たちの会社の方針を考えるため、現在の自動車会社の車づくりの考えや工夫について調べ、工場の立地条件や組み立ての工程について理解した。 ②使い手のニーズを知るため、アンケート調査を行った。アンケートは、10 項目で、性能、機能、安全性、価格等について調査した。回答者は、5 学年の保護者、本校の教職員、SNS における教師の友人ら約 100 名、合計約 200 名。 ③これまでの学習とアンケート調査の結果から「世の中の役に立つ未来の自動車」を設計する。設計は、「人」「安全」「環境」「ICT」をキーワードとして構想し、現在の車がどのように進化するかを予想しながら考えた。 ④ある程度構想がまとまってきたところで、キャッチコピーを考えた。キャッチコピーを考える際に、現在の自動車メーカーのコマーシャルを数本見せた。そして、コマーシャルの構成やキャッチコピーに使われている言葉や順序を分析し、理解を深めた。 ⑤発表資料の構成は、会社名、会社のコンセプト、車づくりの構想、キャッチコピー、新車の性能や機能とし、リーフレットやプレゼンテーションシートなどに反映した。 ⑥新車発表会は、クラス内で行った。評価は、これまでにない新しい提案はあるか、キャッチコピーは適切か、社員の意欲や熱意が伝わったかなどとし、声の大きさや話し方については省いた。 ⑦リーフレットは SNS において制限付きで公開し、先のアンケート回答者からコメントをいただき、児童にフィードバックした。また、トヨタスマートセンター 20XX (https://www.youtube.com/watch?v=BMIVyY2EpLA) を視聴し、「これからの自動車づくり」について確認した。 ⑧「これからの自動車づくり」について、ひとりひとりが新聞形式にまとめることを通して、学習を振り返った。	

ICT 活用により 期待できる効果 ICT 活用のねらい	①創造性：未来の自動車を構想するには、過去や現在の情報収集するだけでなく、現状を分析し、課題を見出し、新たなアイデアを構築することにつながる。 ②コミュニケーション力：チームで活動する場や第三者と情報交換を行える場を設定する。これにより、コミュニケーションの範囲が第三者へと広がり、相手意識や目的意識が高まる。 ③思考・判断力：集めた情報を選択、比較、価値付けることにより、しくみや関係性をつかむことができる。 ④表現力：リーフレットやプレゼンテーションで表現することにより、伝えたい内容を吟味し、形式に合わせた表現方法を学ぶことができる。
評価、振り返り（活動の評価や児童・生徒の声など）	・単元の流れに沿ったルーブリックを作成し、毎時間毎に自己評価を行った。また、自己評価カードを用意し、記述による振り返りも同時に行った。 ・リーフレットやプレゼンテーションについては、構成に基づいた評価基準を設定し、プロダクト評価を行った。 ・SNS のグループ機能を用いて、教師の友人から自動車づくりのアイデアやリーフレットの出来栄えに関して、記述による評価を行った。
その他 (関連 WEB サイト等ありましたらご記入ください。)	TOYOTA～クルマこどもサイト～ http://www.toyota.co.jp/jp/kids/ TOYOTA スマートスマートセンター20XX 年 https://www.youtube.com/watch?v=BMIVyY2EpLA